

【データで考える子どもの世界】
第2回

学習時間について
考える**データ**

2018年11月2日（金）

2019年 1月28日（月）改訂

ベネッセ教育総合研究所

木村 治生

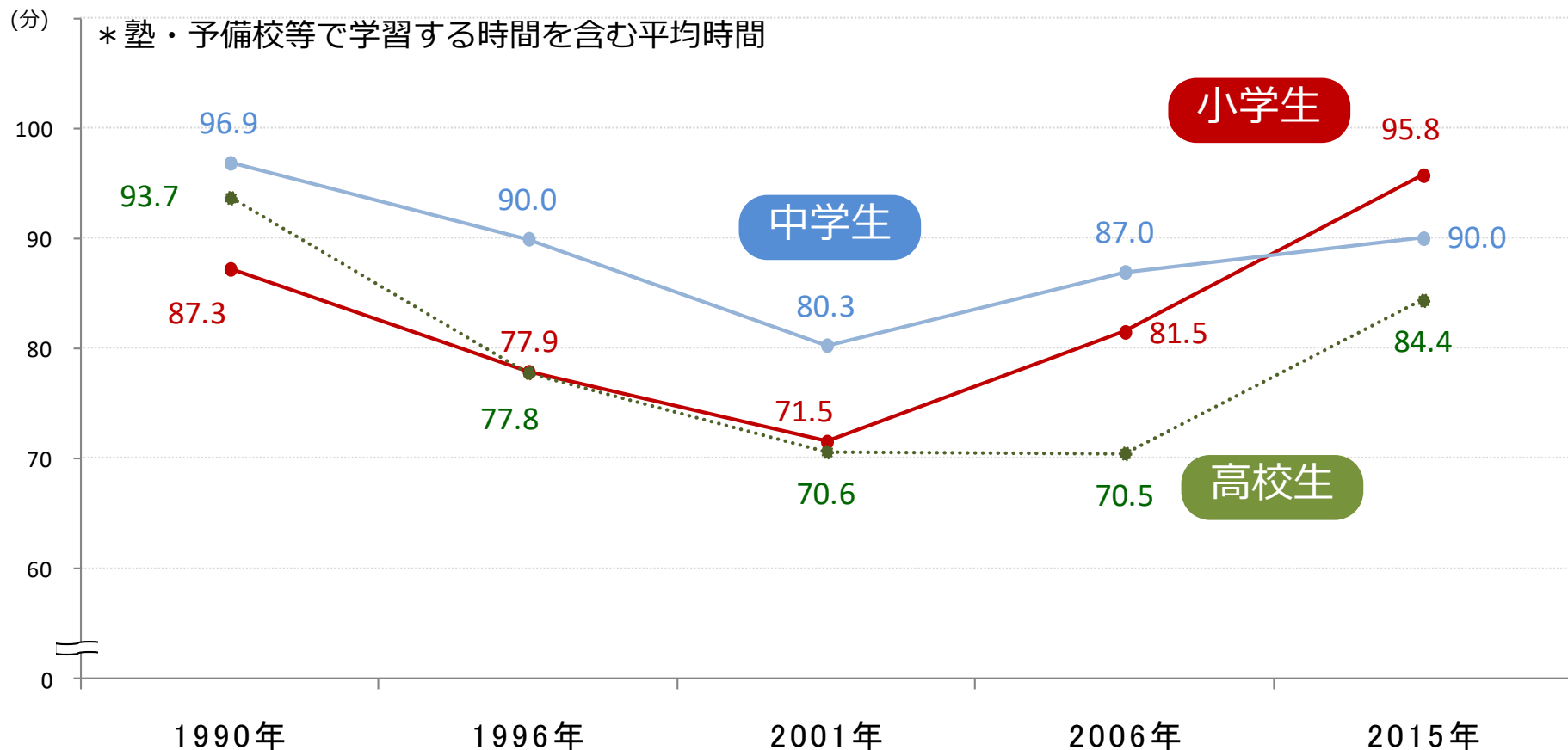
【注意】

- データの引用・転載にあたっては、出典をご明記いただくようにお願いします。なお、ベネッセ教育総合研究所のデータについては、[引用・転載のルール](#)にしたがってご利用ください。
- 本データ集の資料は、発行日時点に公表されているものを扱っていますが、その後、最新のデータが更新されている可能性があります。

学習時間の経年変化

- 学習時間は1990年から2001年にかけて減少したものの、2015年にかけて増加した。
- 小学生の時間の伸びが大きく、2015年には中学生、高校生よりも長く学習している。
- 高校生は増加に転じるタイミングが遅く、もっとも学習時間が短い。

● 図表1：学習時間の経年変化



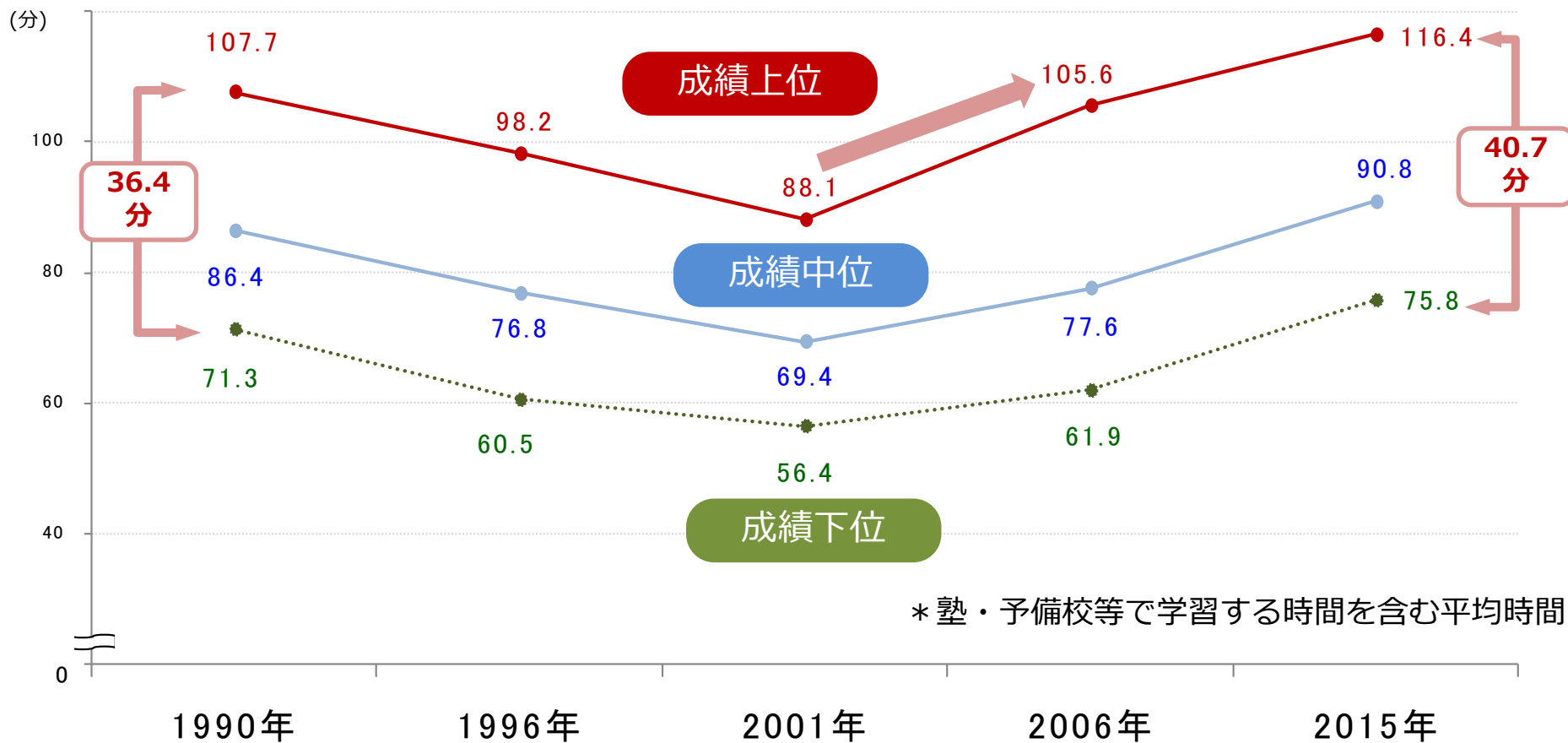
* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第5回学習基本調査](#)」。第1回から5回にかけて、毎回、同じ学校に調査を依頼して実施。

* 対象：各回7000～10000人程度の小5生、中2生、高2生に実施。図では、小5生を小学生、中2生を中学生、高2生を高校生と表記した。

小学生の学習時間（成績別）

- いずれの年も成績が良いほど長い時間学習する傾向は変わらず見られる。
- 成績上位と下位の差は、40分程度。上位の学習時間は1時間56分、下位は1時間16分。
- 2001年から06年にかけて、上位と下位の学習時間の差が拡大した。

●図表2：学習時間の経年変化（小学生・成績の自己評価別）



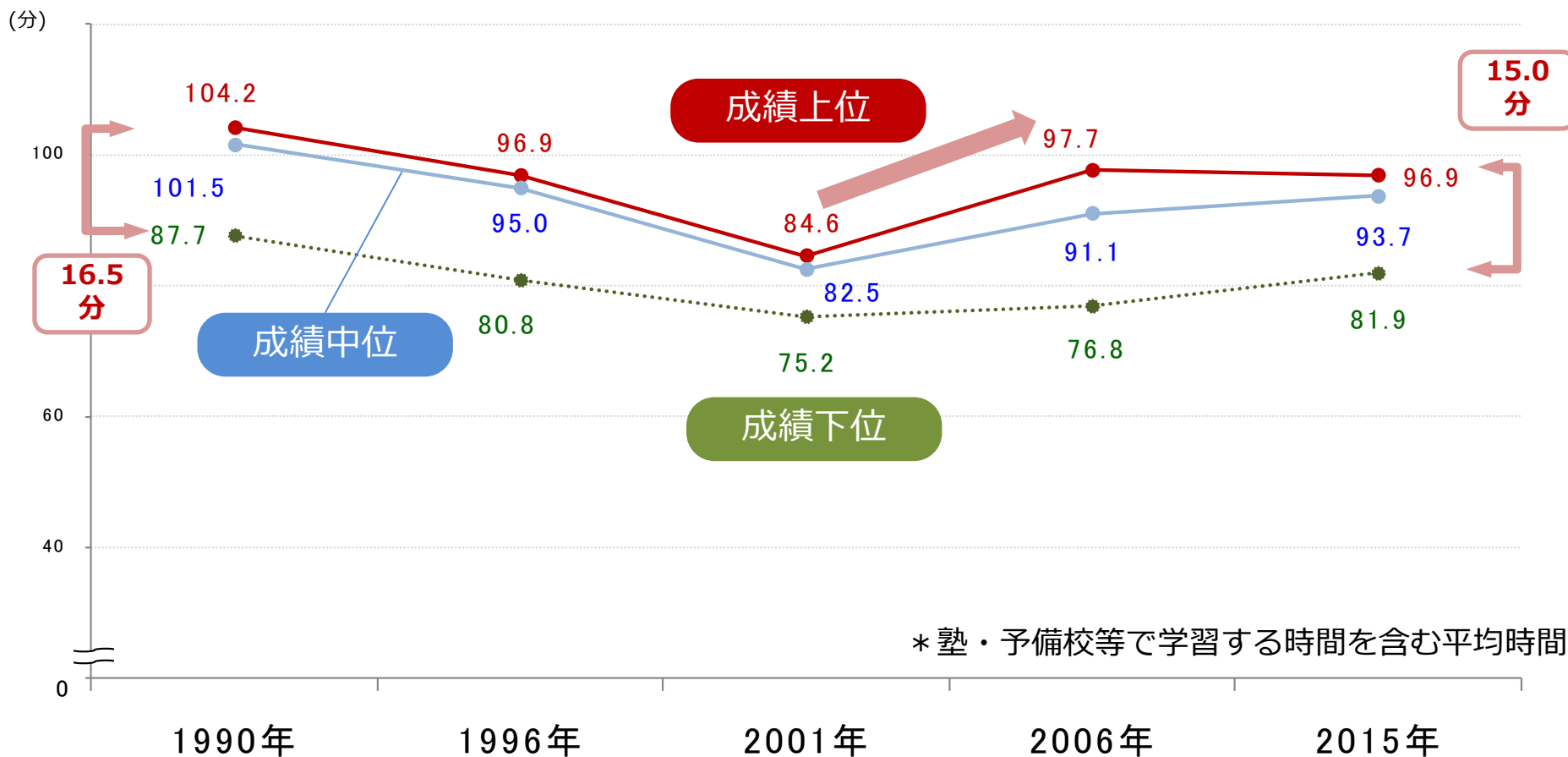
* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第5回学習基本調査](#)」。第1回から5回にかけて、毎回、同じ学校に調査を依頼して実施。

* 対象：各回7000～10000人程度の小5生、中2生、高2生に実施。図では、小5生を小学生と表記した。

中学生の学習時間（成績別）

- いずれの年も成績が良いほど長い時間学習する傾向は変わらず見られるのは、小学生と同様。
- 成績上位と下位の差は、15～16分程度と小さい。学習時間が成績を規定する影響が小さい。
- 成績上位と下位の格差も拡大しているとは言えない。

●図表3：学習時間の経年変化（中学生・成績の自己評価別）



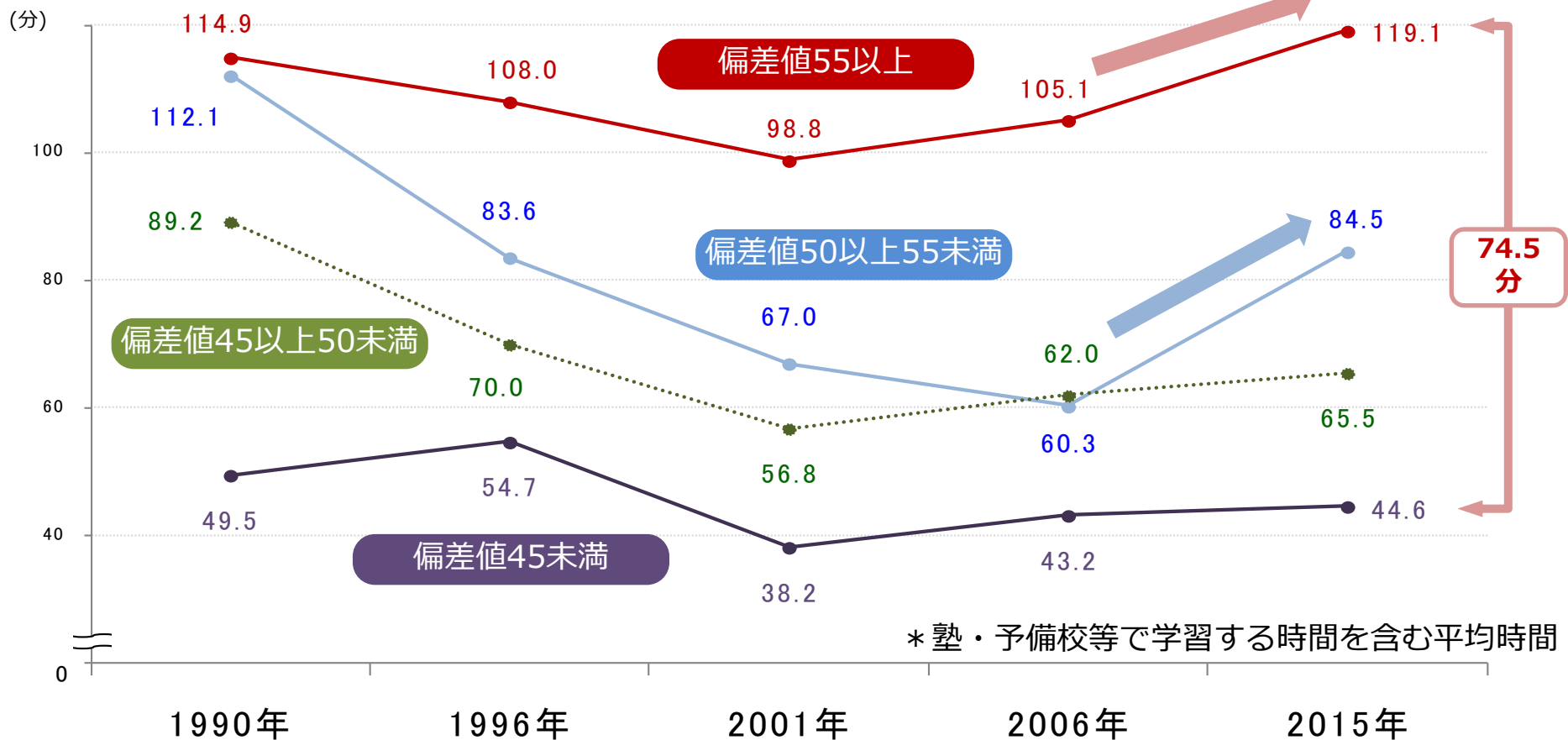
* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第5回学習基本調査](#)」。第1回から5回にかけて、毎回、同じ学校に調査を依頼して実施。

* 対象：各回7000～10000人程度の小5生、中2生、高2生に実施。図では、中2生を中学生と表記した。

高校生の学習時間（学校の偏差値帯別）

- 「偏差値55以上」の学校に通う高校生は、もっとも長く学習している。一方、「偏差値45未満」の学校に通う高校生は、もっとも学習時間が短い。この傾向は25年間で変化ない。
- 「偏差値50以上55未満」は学習時間が大きく減少していたが、2015年に増加した。

● 図表4：学習時間の経年変化（高校生・学校の偏差値帯別）

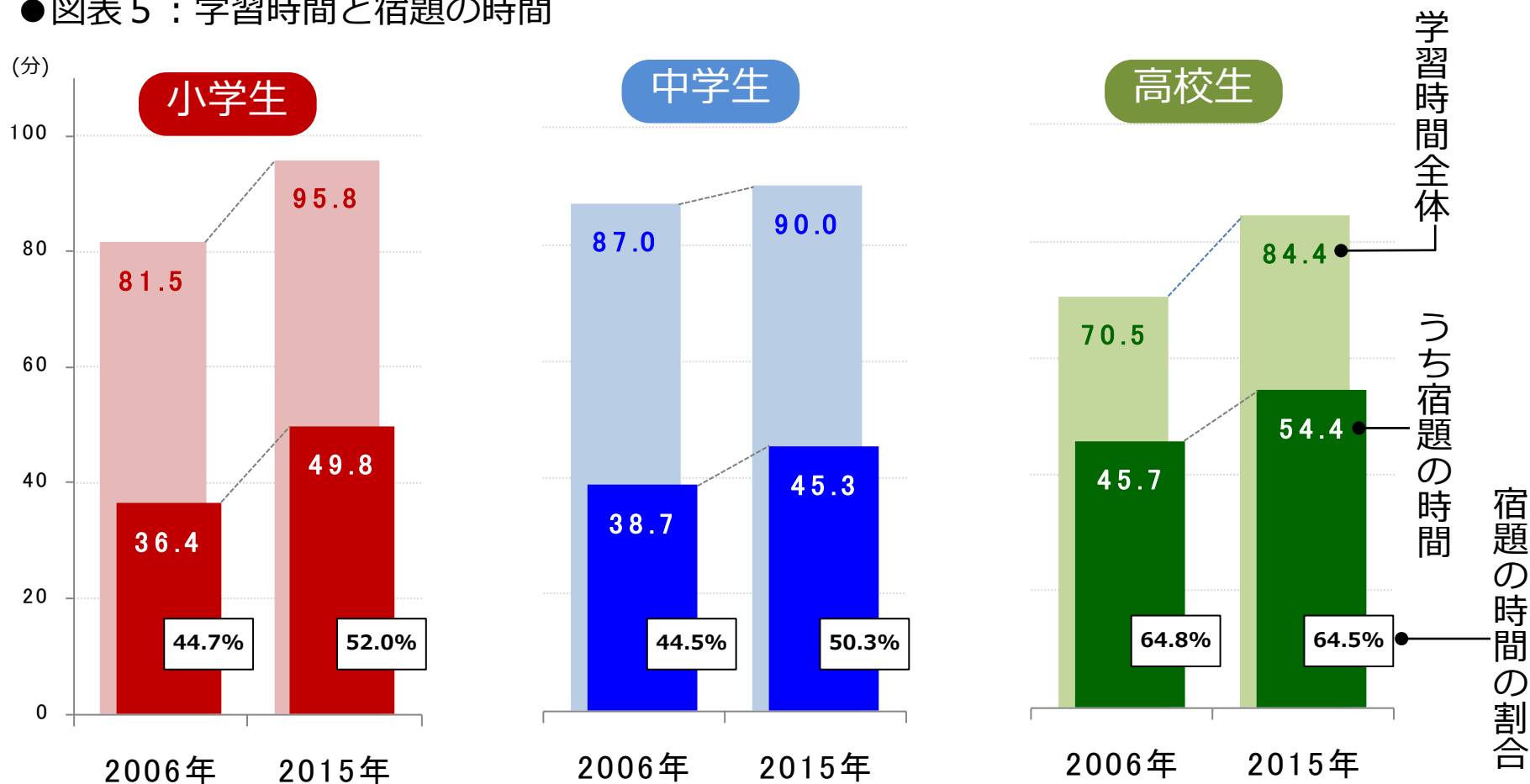


* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第5回学習基本調査](#)」。第1回から5回にかけて、毎回、同じ学校に調査を依頼して実施。

* 対象：各回7000～10000人程度の小5生、中2生、高2生に実施。図では、高2生を高校生と表記した。

- 2015年の「宿題の時間」は、小5生49.8分、中2生45.3分、高2生54.4分。
- 学習時間全体は増えているが、そのほとんどが宿題の時間が増加によるものといえる。
- 学習時間全体に占める宿題の時間の割合は、小中学生は約5割、高校生は6割超。

● 図表5：学習時間と宿題の時間



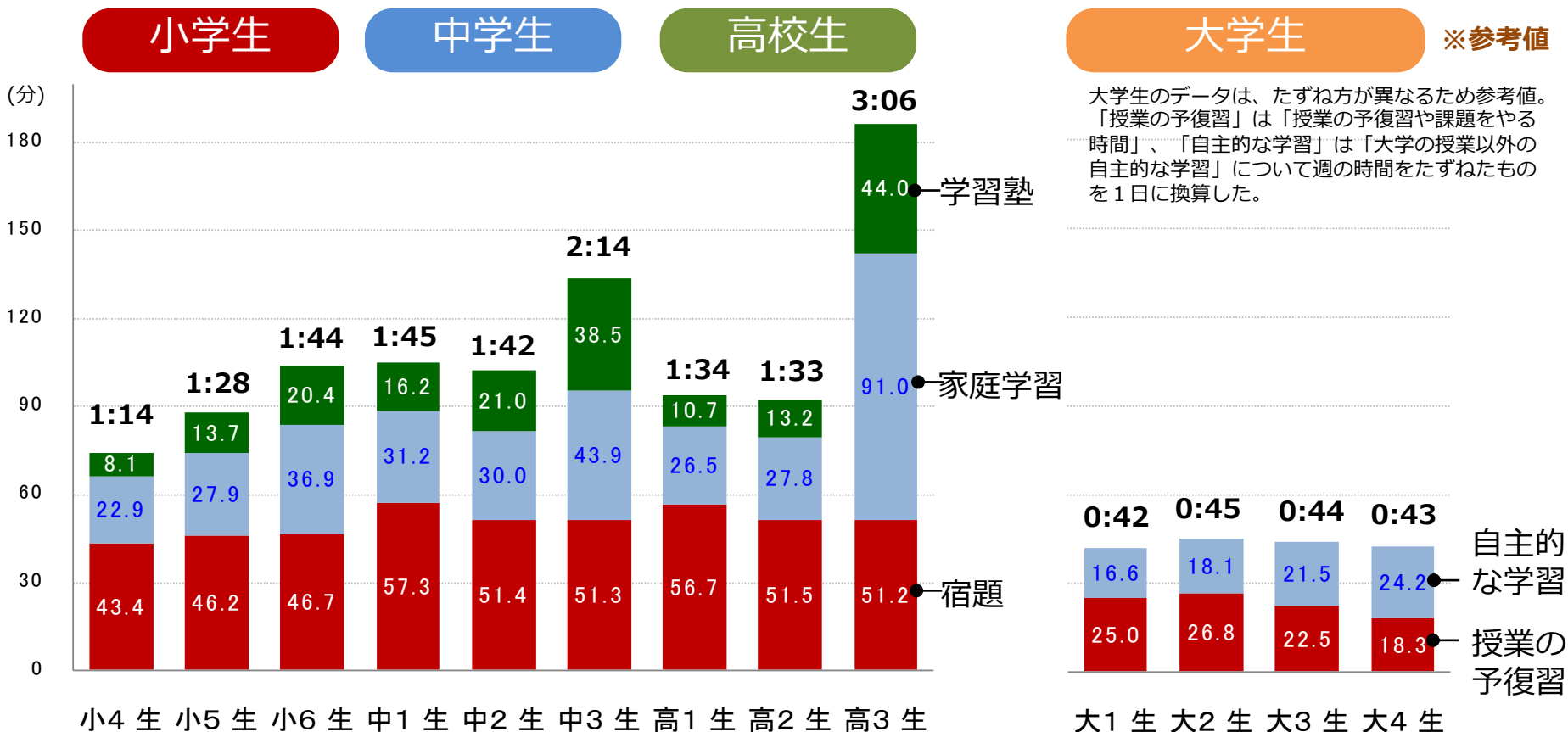
* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第5回学習基本調査](#)」。第1回から5回にかけて、毎回、同じ学校に調査を依頼して実施。

* 対象：各回7000~10000人程度の小5生、中2生、高2生に実施。図では、小5生を小学生、中2生を中学生、高2生を高校生と表記した。

学習時間の学年変化

- 学習時間の合計は小4生から中2生までは1時間台で推移。高1～2生も1時間台。
- 受験をする学年である中3生は2時間14分、高3生は3時間6分と、学習時間が長い。
- 大学生の学習時間は1日あたり45分程度で、小学生よりも短い。

● 図表6：平日の学習時間（学年別、1日あたりの平均時間）



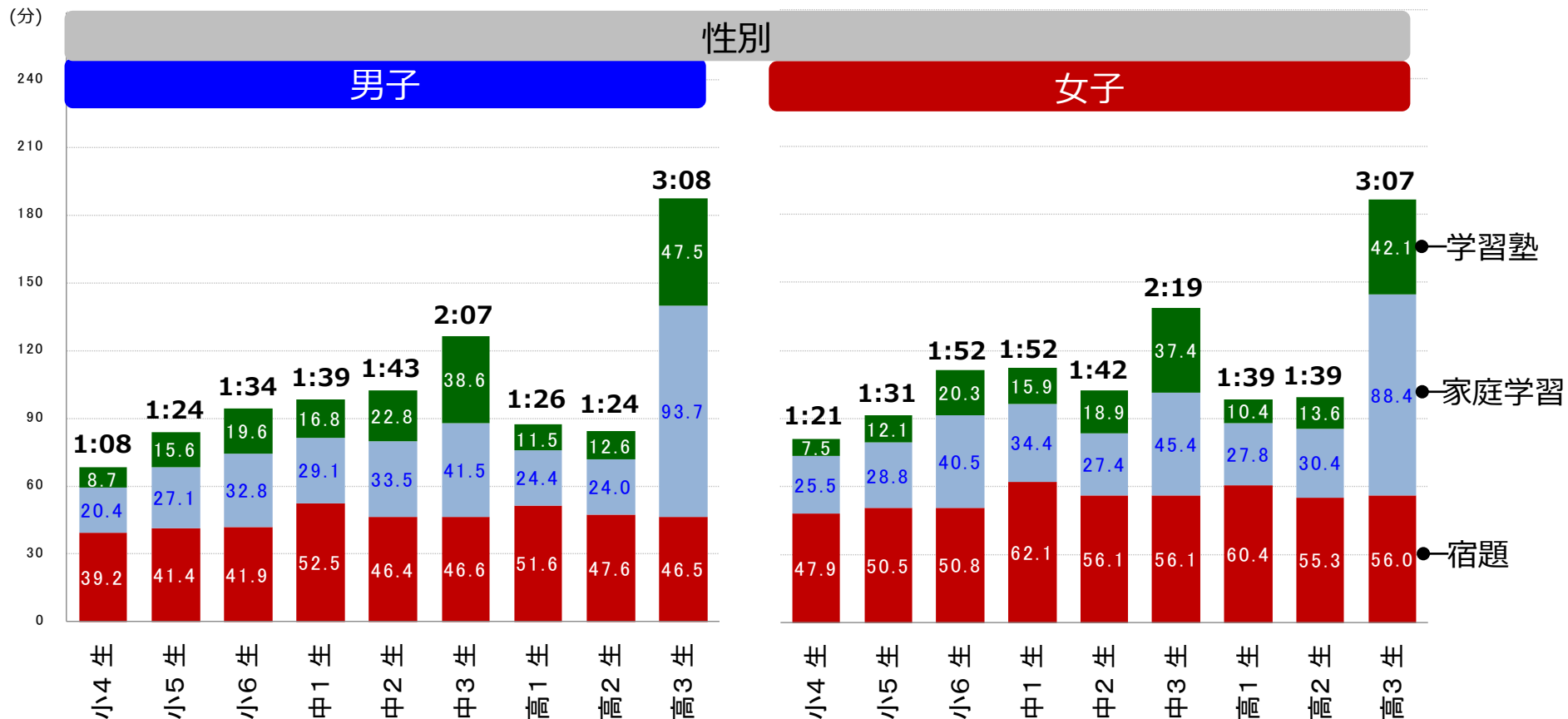
* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「[子どもの生活と学びに関する親子調査2017](#)」
ベネッセ教育総合研究所「[第3回 大学生の学習・生活実態調査](#)」

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名、大学生4,948名。

男女による学習時間の違い

- 中2生、高3生を除いて、男子に比べて女子のほうが学習時間が長い傾向が見られる。
- 女子は、いずれの学年でも「宿題」の時間が長い。
- 「学習塾」の時間は、ほとんど差が見られない。

● 図表7：平日の学習時間（性別、学年別、1日あたりの平均時間）



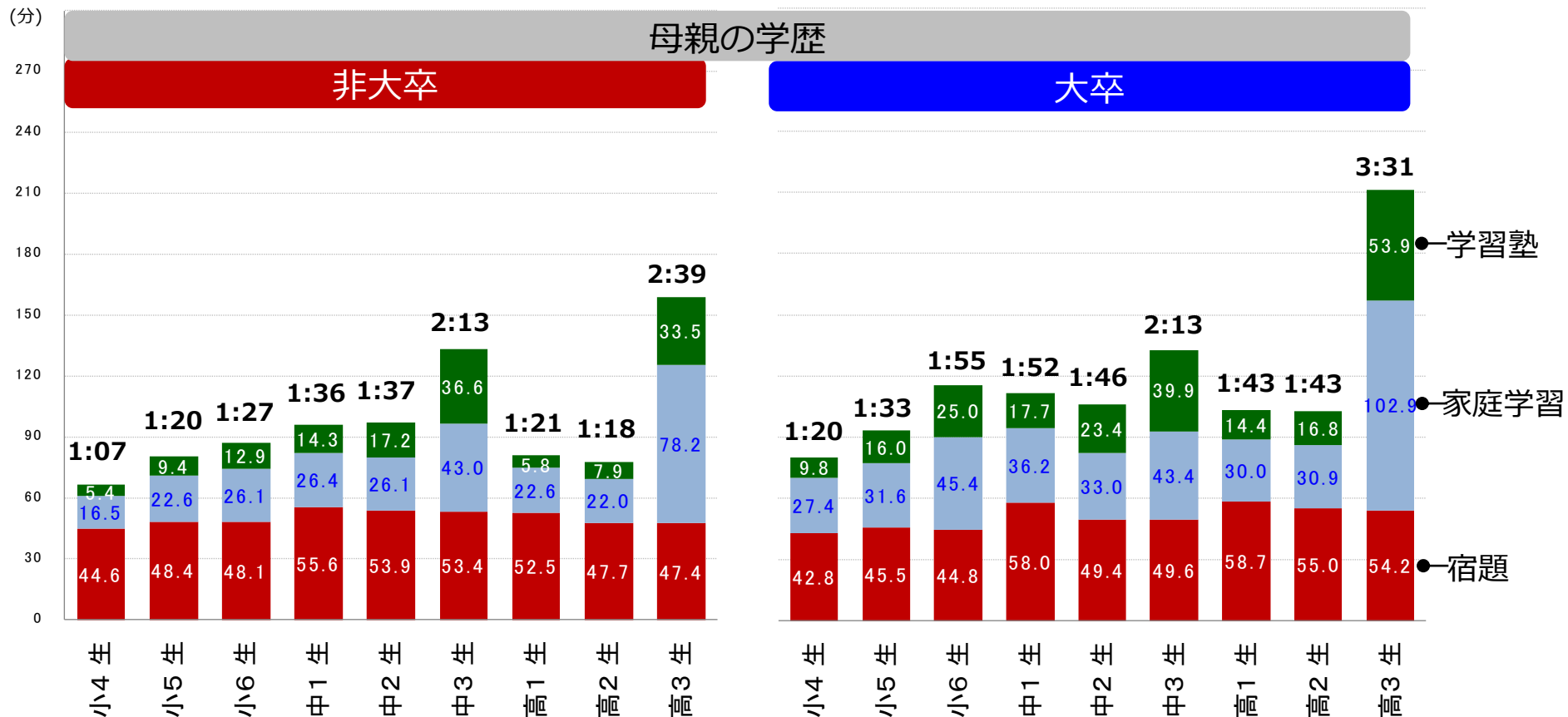
* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名。

母親の学歴による学習時間の違い

- 母親が「非大卒」の子どもに比べて、母親が「大卒」の子どものほうが、学習時間が長い。
- その差は、小学生で10～20分、中学生で0～15分、高校生で20～50分程度。
- 「大卒」の母親を持つ子どもは、「家庭学習」「学習塾」の時間が長い傾向。

● 図表8：平日の学習時間（母親の学歴別、学年別、1日あたりの平均時間）

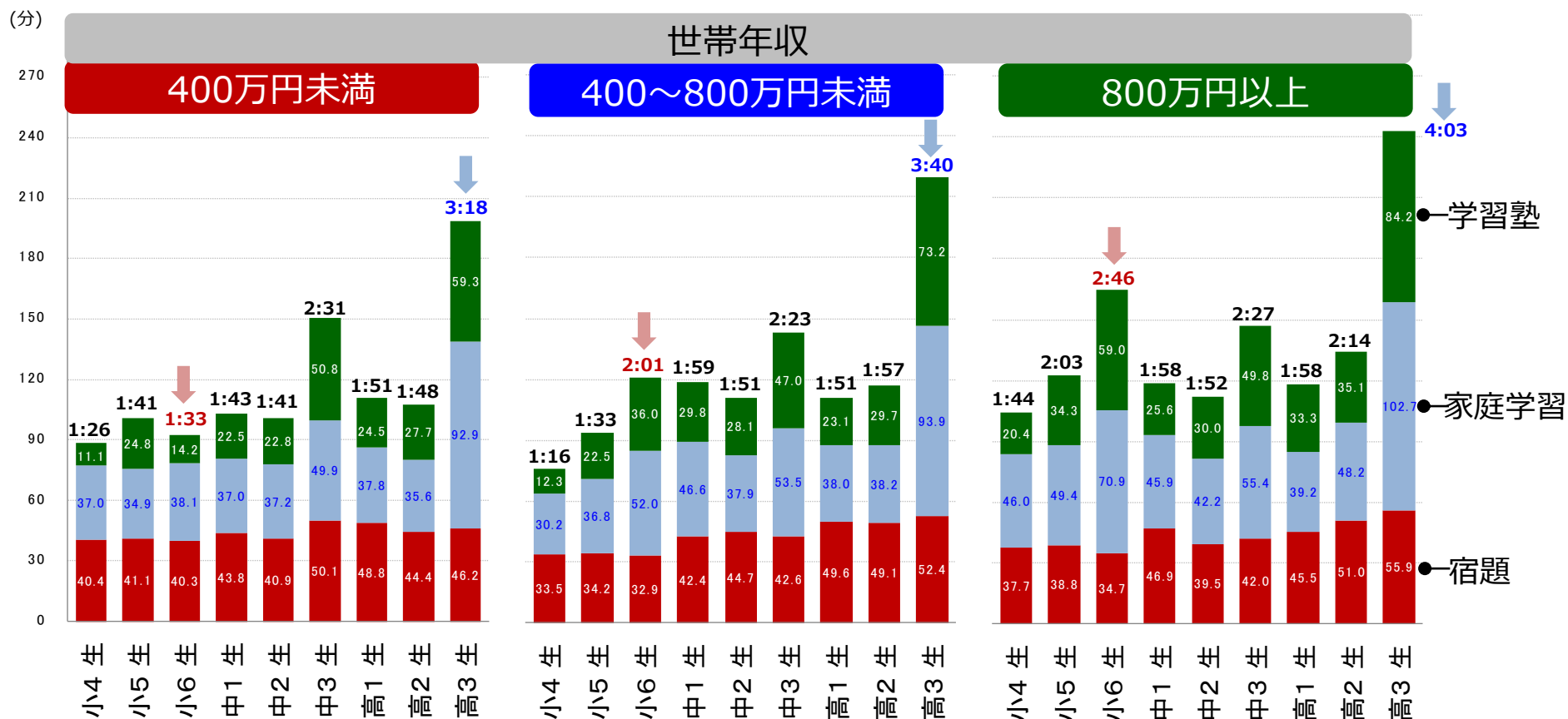


* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「[子どもの生活と学びに関する親子調査2017](#)」

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名。「非大卒」は中学校、高校、専門学校卒、「大卒」は短期大学、四年制大学、大学院卒。学歴が不明なケースは分析から除外した。

- 世帯年収による学習時間の違いは、特定の学年に顕著に現れる。
- 「400万円未満」と「800万円以上」の差は、小6生で1時間13分、高3生で45分と大きい。
- 中3生は世帯年収による違いがほとんど見られない。

● 図表9：平日の学習時間（世帯年収別、学年別、1日あたりの平均時間）



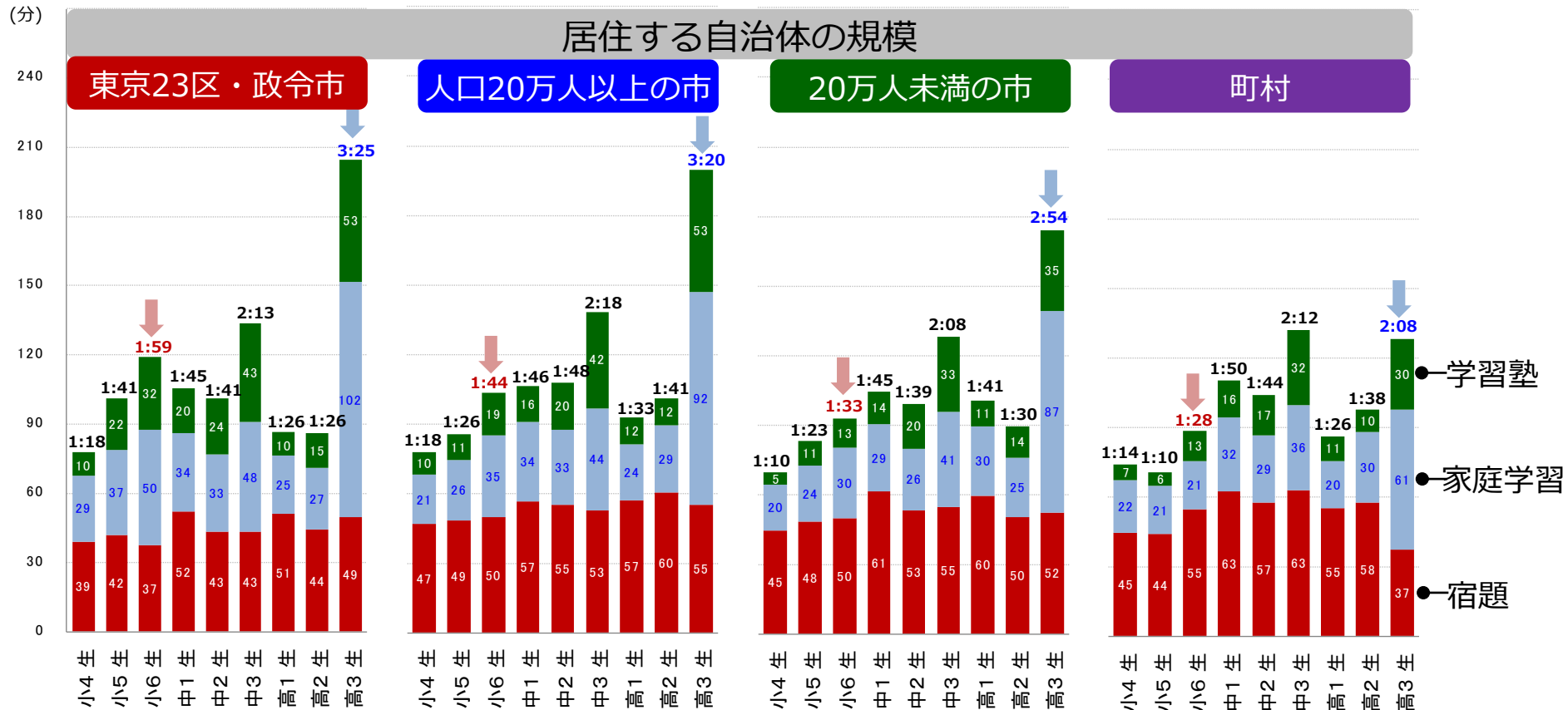
* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名。世帯年収は保護者の回答を「400万円未満」「400~800万円未満」「800万円以上」に3区分し、「答えたくない」や無答不明は分析から除外した。

自治体規模による学習時間の違い

- 自治体規模による学習時間の違いは、特定の学年に顕著に現れる。
- 「東京23区・政令市」と「人口5万人未満」の差は、小6生で31分、高3生で1時間17分。
- 「東京23区・政令市」の子どもは全体に「宿題」の時間が短く、「学習塾」の時間が長い。

- 図表10：平日の学習時間（自治体規模別、学年別、1日あたりの平均時間）



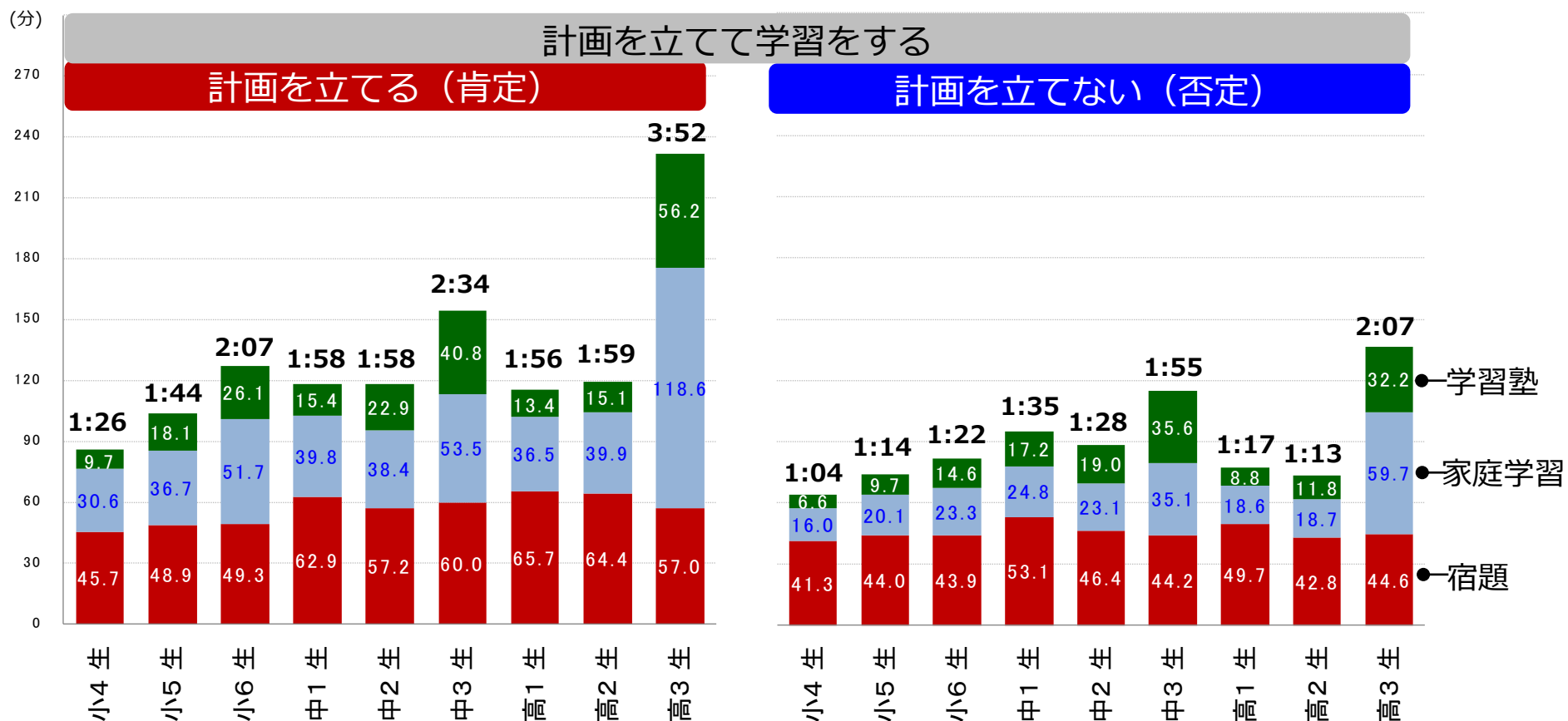
* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名。自治体規模は、2015年調査の時点で回答した自治体名（郵便番号）をもとに人口を把握し、「東京23区・政令市」「人口20万以上の市」「20万人未満の市」「町村」に区分した。

学習計画による学習時間の違い

- いずれの学年でも「計画を立てて学習をする」に肯定する子どものほうが学習時間が長い。
- 「肯定」群は、とくに「家庭学習」の時間が長い傾向が顕著。
- 「肯定」と「否定」の差は特に高3生で差が開いており、両者は1時間45分異なる。

● 図表11：平日の学習時間（学習計画別、学年別、1日あたりの平均時間）



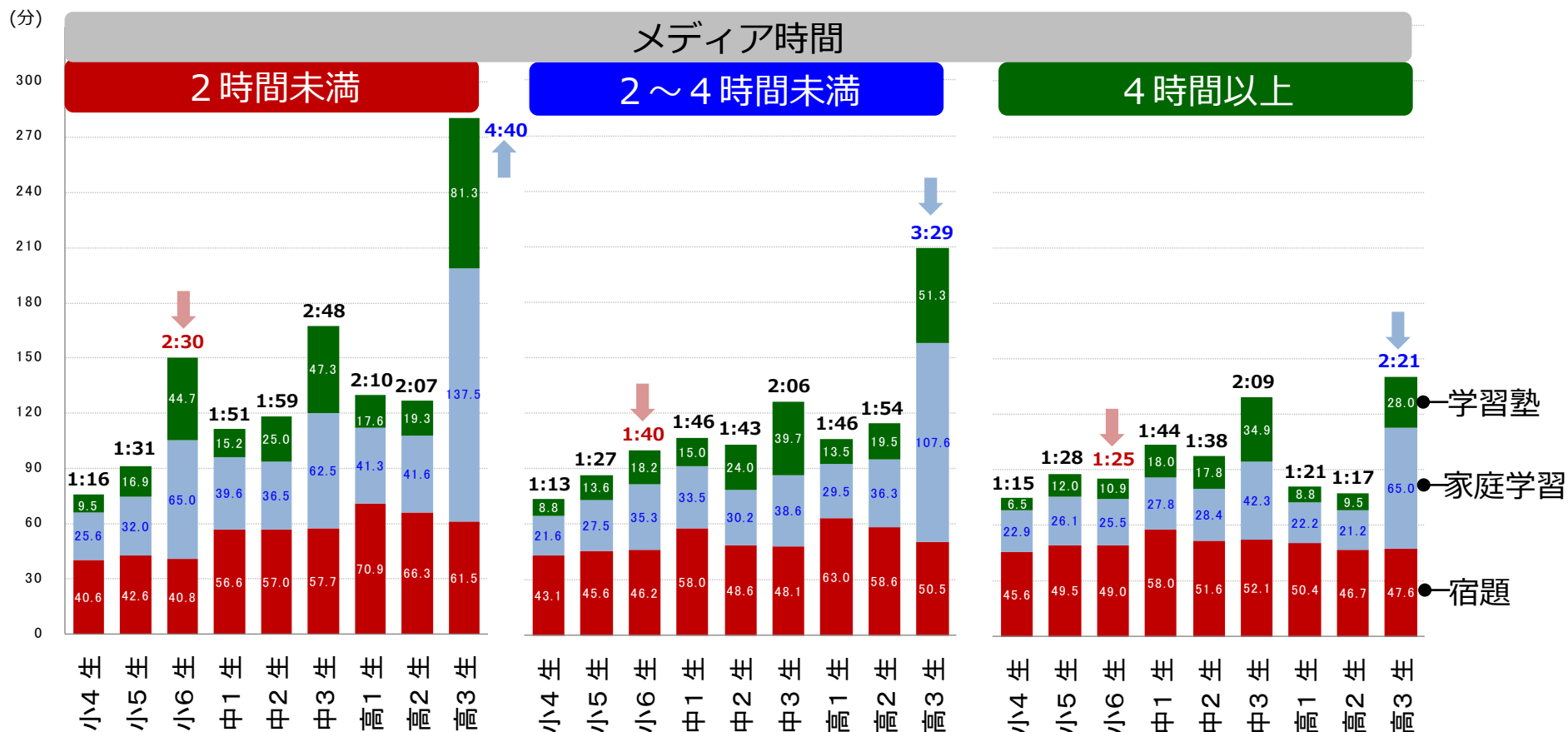
* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「[子どもの生活と学びに関する親子調査2017](#)」

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名。「肯定」は「計画を立てて学習をする」に対して「よくする」「ときどきする」と回答した子ども、「否定」は「まったくしない」「あまりしない」と回答した子ども。無答不明は分析から除外した。

メディア時間による学習時間の違い

- 全体にメディアの時間が短い子どものほうが、学習時間は長い傾向がある。
- 特に差が大きいのは高3生で、「2時間未満」と「4時間以上」に2時間19分の開きがある。
- メディア時間の影響は、小6生を除いて、高校生>中学生>小学生の順に大きい。

●図表12：平日の学習時間（メディア時間別、学年別、1日あたりの平均時間）



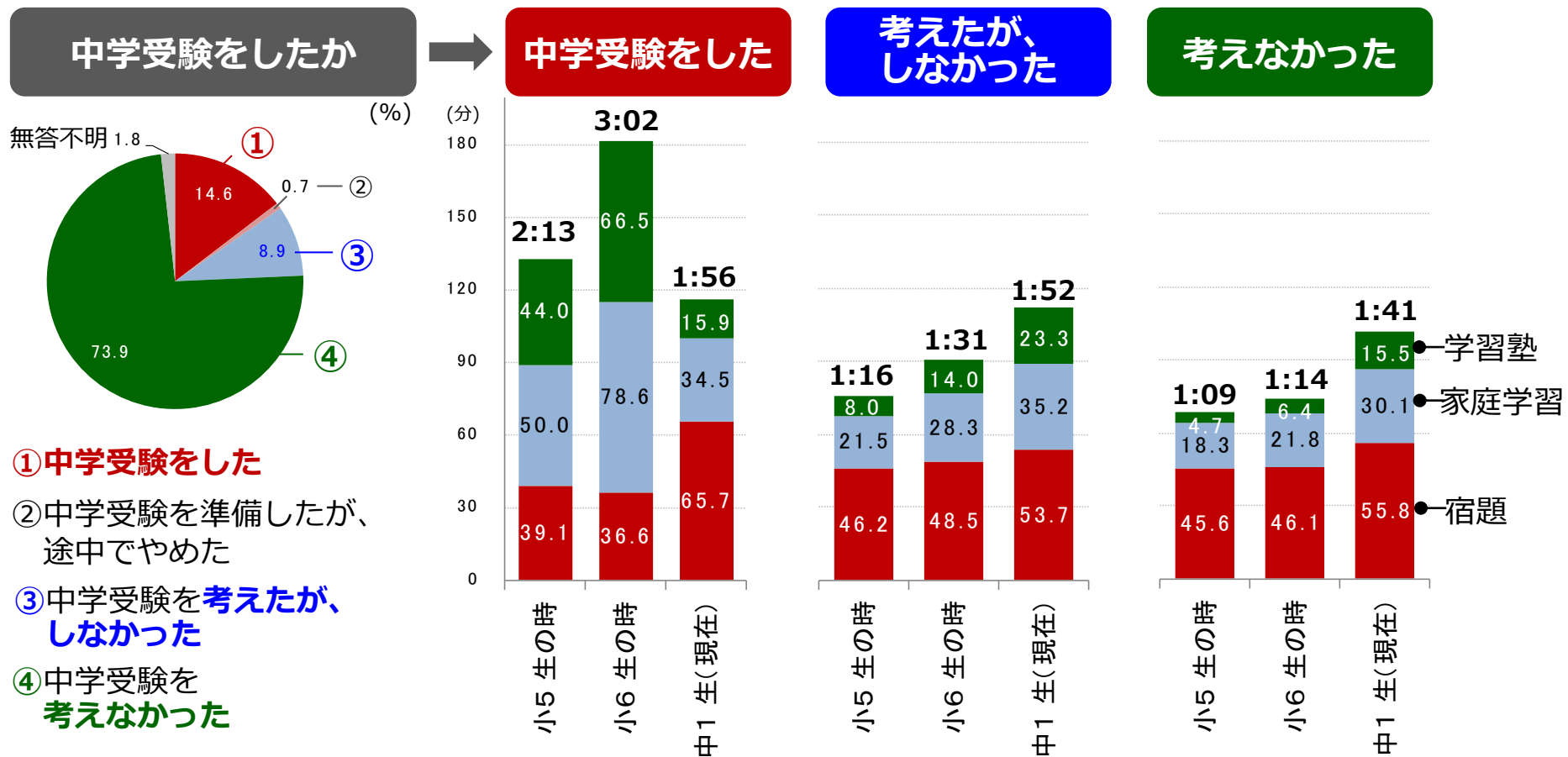
* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名。メディア時間は、「テレビやDVDを見る」「テレビゲームや携帯ゲーム機を使う」「携帯電話やスマートフォンを使う」「パソコンやタブレットを使う」「音楽を聴く」「本を読む」「マンガや雑誌を読む」「新聞を読む」の合計時間。

中学受験と学習時間

- 「中学受験をした」子どもは、小5生の時に約2時間、小6生の時に約3時間勉強していた。
- 「受験を考えなかった」子どもは、小5生の時も小6生の時も勉強時間は1時間強。
- 中学入学後（中1生）の学習時間は、中学受験をしたかどうかに関わらず2時間弱。

● 図表13：平日の学習時間（中学受験別、中1生、1日あたりの平均時間）



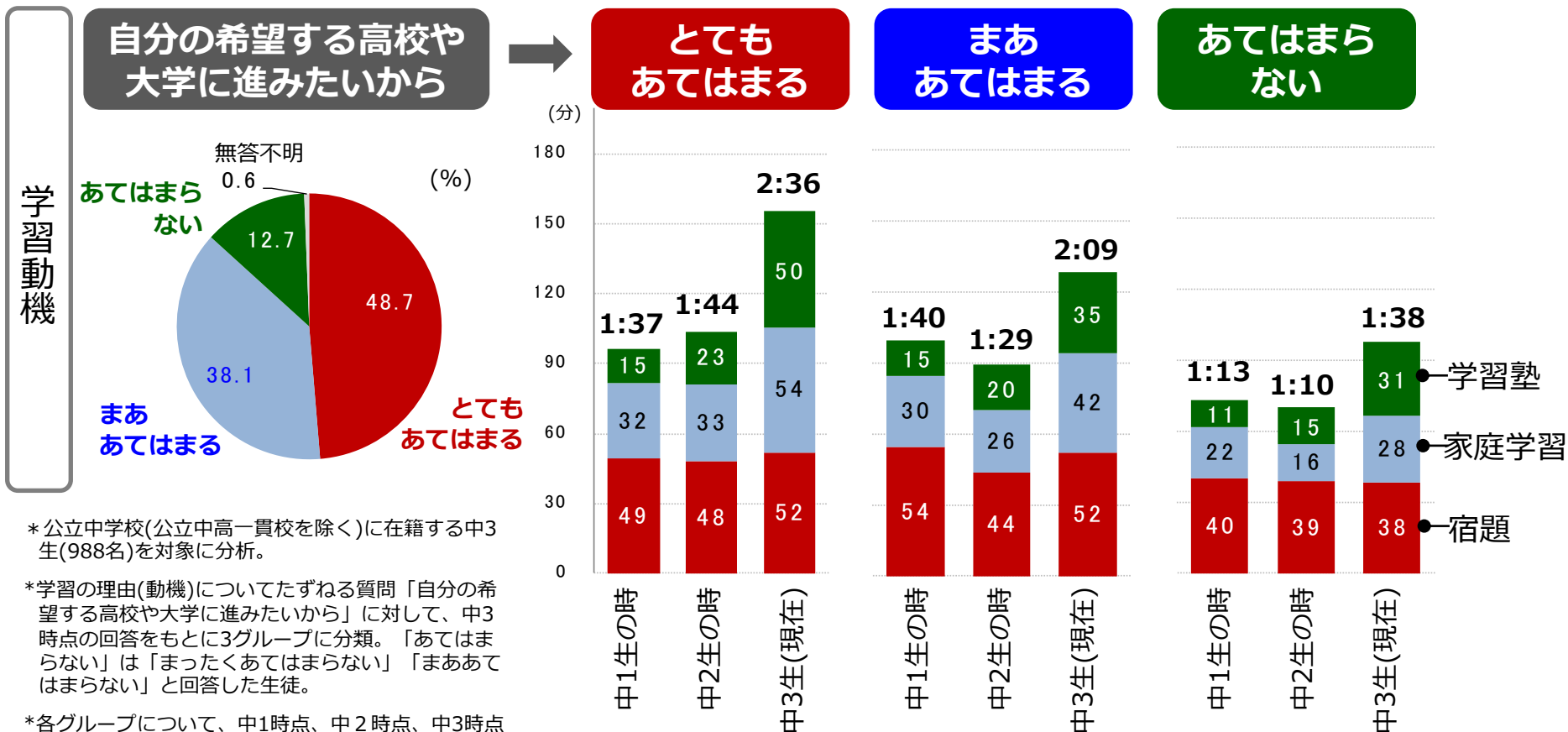
* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「[子どもの生活と学びに関する親子調査2017](#)」

* 対象：中学1年生1,074名。

高校進学と学習時間

- 「自分の希望する高校や大学に進みたいから」という学習動機に肯定的な生徒は、そうでない生徒よりも長く学習する傾向が見られる。
- 中3生では、「とてもあてはまる」は「あてはまらない」に比べて約1時間長く学習。

● 図表14：平日の学習時間（学習動機別、公立中3生、1日あたりの平均時間）



* 公立中学校(公立中高一貫校を除く)に在籍する中3生(988名)を対象に分析。

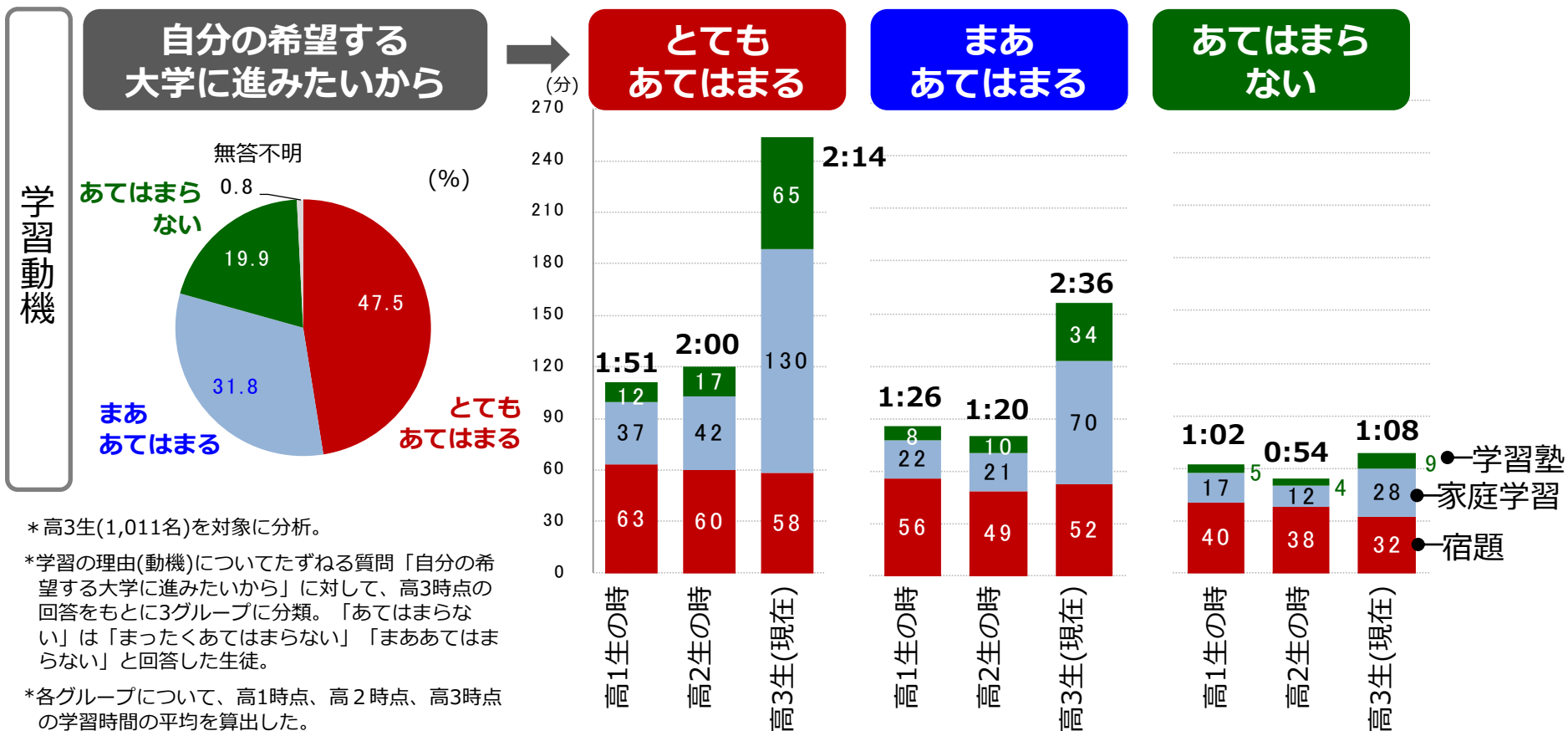
* 学習の理由(動機)についてたずねる質問「自分の希望する高校や大学に進みたいから」に対して、中3時点の回答をもとに3グループに分類。「あてはまらない」は「まったくあてはまらない」「まああてはまらない」と回答した生徒。

* 各グループについて、中1時点、中2時点、中3時点の学習時間の平均を算出した。

大学受験と学習時間

- 「自分の希望する大学に進みたいから」という学習動機に「とてもあてはまる」と回答した生徒は「あてはまらない」と回答した生徒の2倍程度の学習をしている。
- とくに高3生の「家庭学習」の差が大きい。

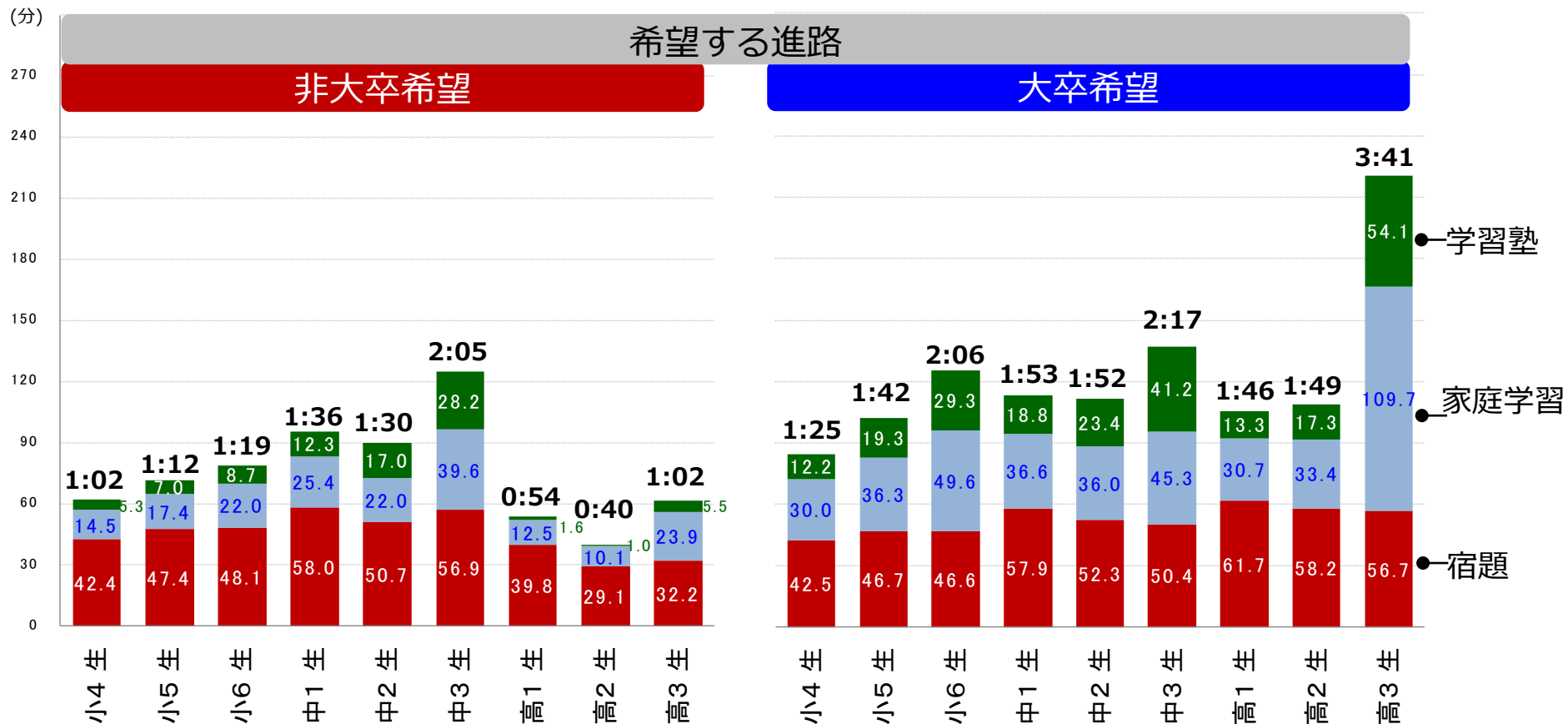
● 図表15：平日の学習時間（学習動機別、高3生、1日あたりの平均時間）



希望進路による学習時間の違い

- 「大卒」を希望する子どものほうが、「非大卒」を希望する子どもよりも学習時間が長い。
- その差は、小学生で20～50分、中学生で10～20分、高校生で1時間～2時間半程度。
- 中学生は差が小さいが、高校生になると大きく差が広がる。

● 図表16：平日の学習時間（希望進路別、学年別、1日あたりの平均時間）

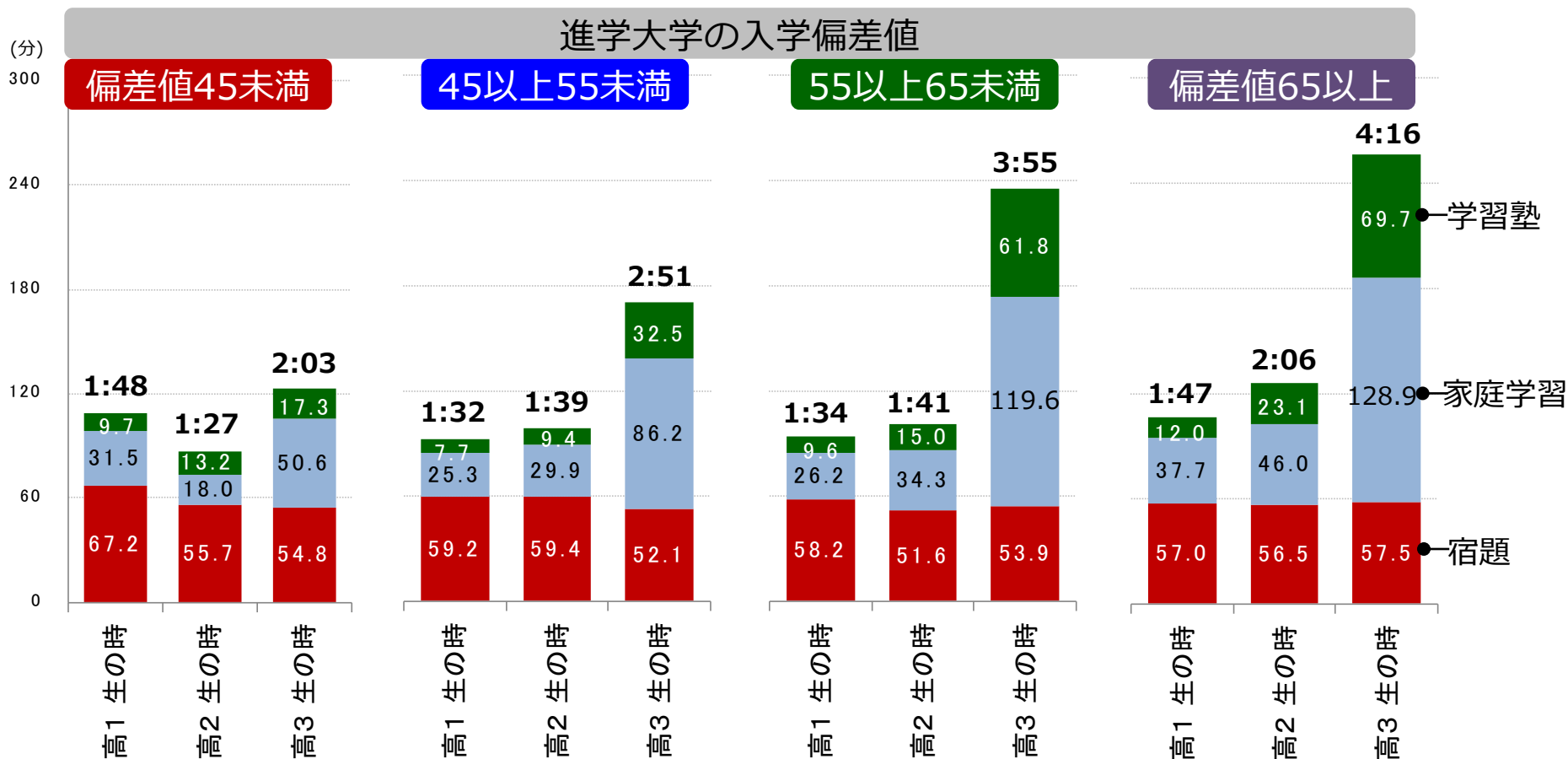


* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「[子どもの生活と学びに関する親子調査2017](#)」

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名。「非大卒希望」は中学校、高校、高専、専門学校卒希望、「大卒希望」は短期大学、四年制大学、大学院卒希望。「その他」「わからない」は分析から除外した。

- 高1・2生の時の学習時間は、進学した大学の入学偏差値によって大きく変わらない。
- 高3生の時の学習時間は、入学偏差値「45未満」と「65以上」で倍以上異なる。
- 「宿題」は入学偏差値によって変わらないが、「家庭学習」「学習塾」が大きく異なる。

- 図表17：平日の学習時間（進学大学の入学偏差値別、高3生卒業時、1日あたりの平均時間）



* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」、同「高校3年卒業時調査2018」

* 対象：高3生（卒業時）972名のうち、四年制大学もしくは短期大学に進学した637名。進学大学名を記入し、入学偏差値が判明したものを分析。

学習時間を規定する要因分析

- モデルのあてはまりが中3生はよくない。中3生はさまざまな要因が学習時間を規定しない。
- 小6生と高3生で、「世帯年収」や「自治体規模」などの属性の影響が見られる。
- 「学習動機」があることや「学習計画」を立てることが、いずれの段階でも強い影響を持つ。

- 図表18：平日の学習時間を従属変数にした重回帰分析（小6生、中3生、高3生）

小6生

	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率
	B	標準誤	ベータ		
(定数)	-34.829	15.527		-2.243	0.025
男子(ダミー)	-16.691	5.620	-0.091	-2.970	0.003
母学歴大卒(ダミー)	8.474	5.935	0.046	1.428	0.154
世帯年収(百万円)	3.474	0.816	0.137	4.257	0.000
自治体規模(4段階)	7.239	2.973	0.076	2.435	0.015
学習動機(志望校進学)	21.697	3.028	0.235	7.165	0.000
学習計画	18.186	3.182	0.185	5.715	0.000
メディア時間(h)	-2.957	1.187	-0.079	-2.491	0.013

強制投入法、従属変数:学習時間(分)

ANOVA p.<0.001 調整済みR2乗値=0.199

中3生

	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率
	B	標準誤	ベータ		
(定数)	1.143	20.123		0.057	0.955
男子(ダミー)	-6.330	6.315	-0.033	-1.002	0.316
母学歴大卒(ダミー)	-1.084	6.563	-0.006	-0.165	0.869
世帯年収(百万円)	0.898	0.955	0.032	0.941	0.347
自治体規模(4段階)	2.234	3.401	0.022	0.657	0.512
学習動機(志望校進学)	25.335	4.232	0.207	5.986	0.000
学習計画	14.807	3.582	0.145	4.134	0.000
メディア時間(h)	0.613	1.247	0.017	0.491	0.623

強制投入法、従属変数:学習時間(分)

ANOVA p.<0.001 調整済みR2乗値=0.079

高3生

	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率
	B	標準誤	ベータ		
(定数)	-59.679	31.687		-1.883	0.060
男子(ダミー)	16.101	10.417	0.049	1.546	0.123
母学歴大卒(ダミー)	20.977	10.914	0.063	1.922	0.055
世帯年収(百万円)	1.613	1.416	0.038	1.139	0.255
自治体規模(4段階)	13.248	5.475	0.076	2.420	0.016
学習動機(志望校進学)	51.941	6.062	0.301	8.568	0.000
学習計画	25.006	5.957	0.144	4.198	0.000
メディア時間(h)	-11.774	2.011	-0.203	-5.856	0.000

強制投入法、従属変数:学習時間(分)

ANOVA p.<0.001 調整済みR2乗値=0.274

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
学習時間(分)	1096	0.0	600.0	104.264	92.2254
男子(ダミー)	1084	0	1	0.48	0.500
母学歴大卒(ダミー)	1044	0	1	0.59	0.492
世帯年収(百万円)	978	1.50	22.50	7.0087	3.53527
自治体規模(4段階)	1084	1	4	2.78	0.950
学習動機(志望校進学)	1077	1	4	2.84	1.001
学習計画	1080	1	4	2.53	0.930
メディア時間(h)	1025	0.00	10.00	4.0269	2.43880
有効なケースの数	888				

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
学習時間(分)	1122	0.0	750.0	132.915	94.4272
男子(ダミー)	1082	0	1	0.49	0.500
母学歴大卒(ダミー)	1026	0	1	0.55	0.497
世帯年収(百万円)	968	1.50	22.50	7.1736	3.36228
自治体規模(4段階)	1082	1	4	2.78	0.923
学習動機(志望校進学)	1076	1	4	3.28	0.802
学習計画	1078	1	4	2.45	0.942
メディア時間(h)	1042	0.00	10.00	4.6851	2.62598
有効なケースの数	892				

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
学習時間(分)	976	0.0	870.0	186.069	161.317
男子(ダミー)	933	0	1	0.49	0.500
母学歴大卒(ダミー)	896	0	1	0.57	0.495
世帯年収(百万円)	837	1.50	22.50	7.5108	3.87536
自治体規模(4段階)	933	1	4	2.79	0.933
学習動機(志望校進学)	925	1	4	3.20	0.957
学習計画	930	1	4	2.61	0.955
メディア時間(h)	889	0.00	10.00	4.6618	2.82649
有効なケースの数	764				

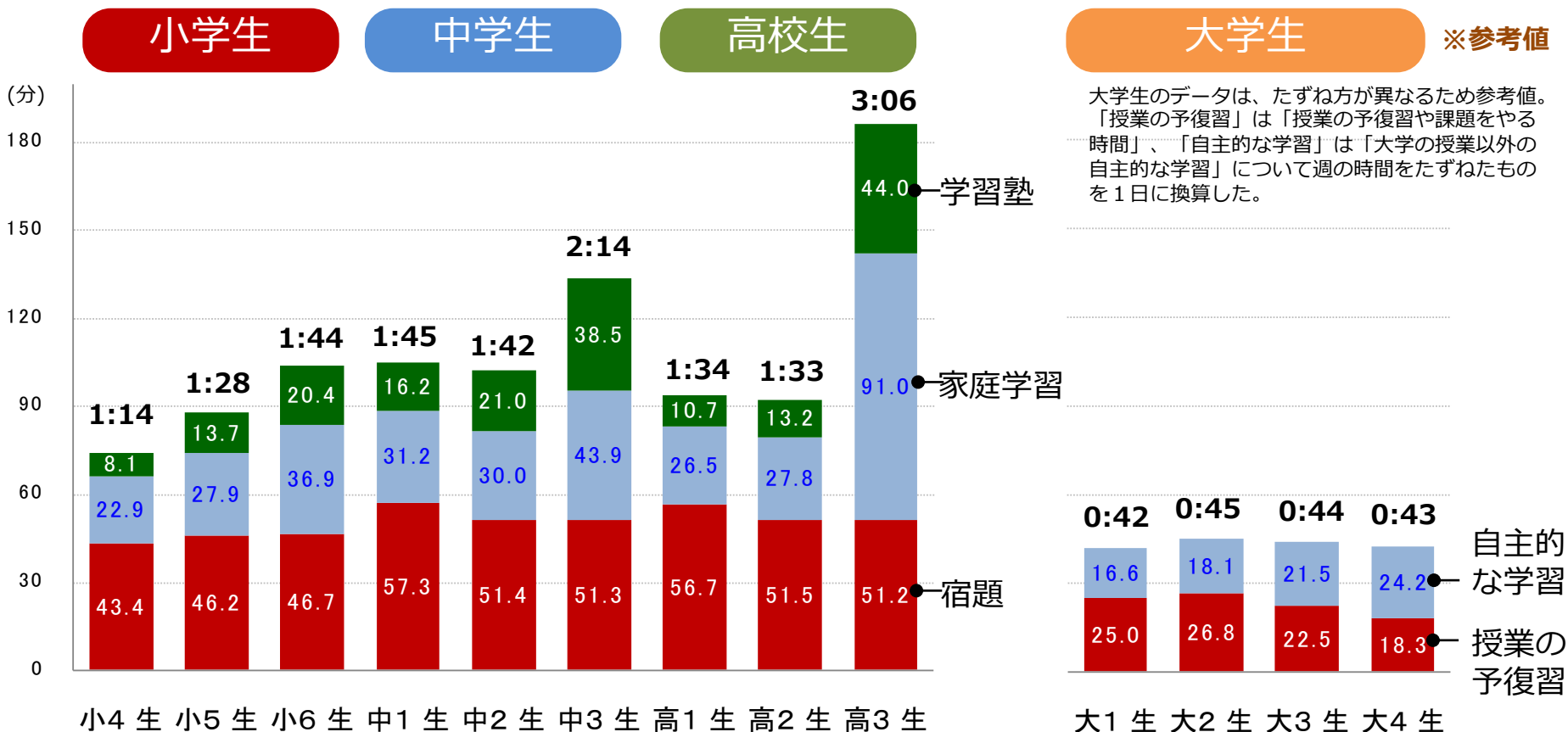
* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」、サンプル数は記述統計量に記載の通り。

* 「学習時間」は「宿題」「家庭学習」「学習塾」の合計。「世帯年収」は百万単位に換算、「自治体規模」は「東京23区・政令市」=4〜「町村」1に変換、「学習動機」は「自分の希望する(高校や)大学に進みたいから」に対して「とてもあてはまる」4〜「まったくあてはまらない」1に変換、「学習計画」は「計画立てて学習する」に対して「よくする」4〜「まったくしない」1に変換、「メディアの時間」は各メディアの時間の合計を時間に換算して10時間以上を一律に10時間とした。

学習時間の学年変化（再掲）

- 学習時間の合計は小4生から中2生までは1時間台で推移。高1～2生も1時間台。
- 受験をする学年である中3生は2時間14分、高3生は3時間6分と、学習時間が長い。
- 大学生の学習時間は1日あたり45分程度で、小学生よりも短い。

● 図表19：平日の学習時間（学年別、1日あたりの平均時間）



* 出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」

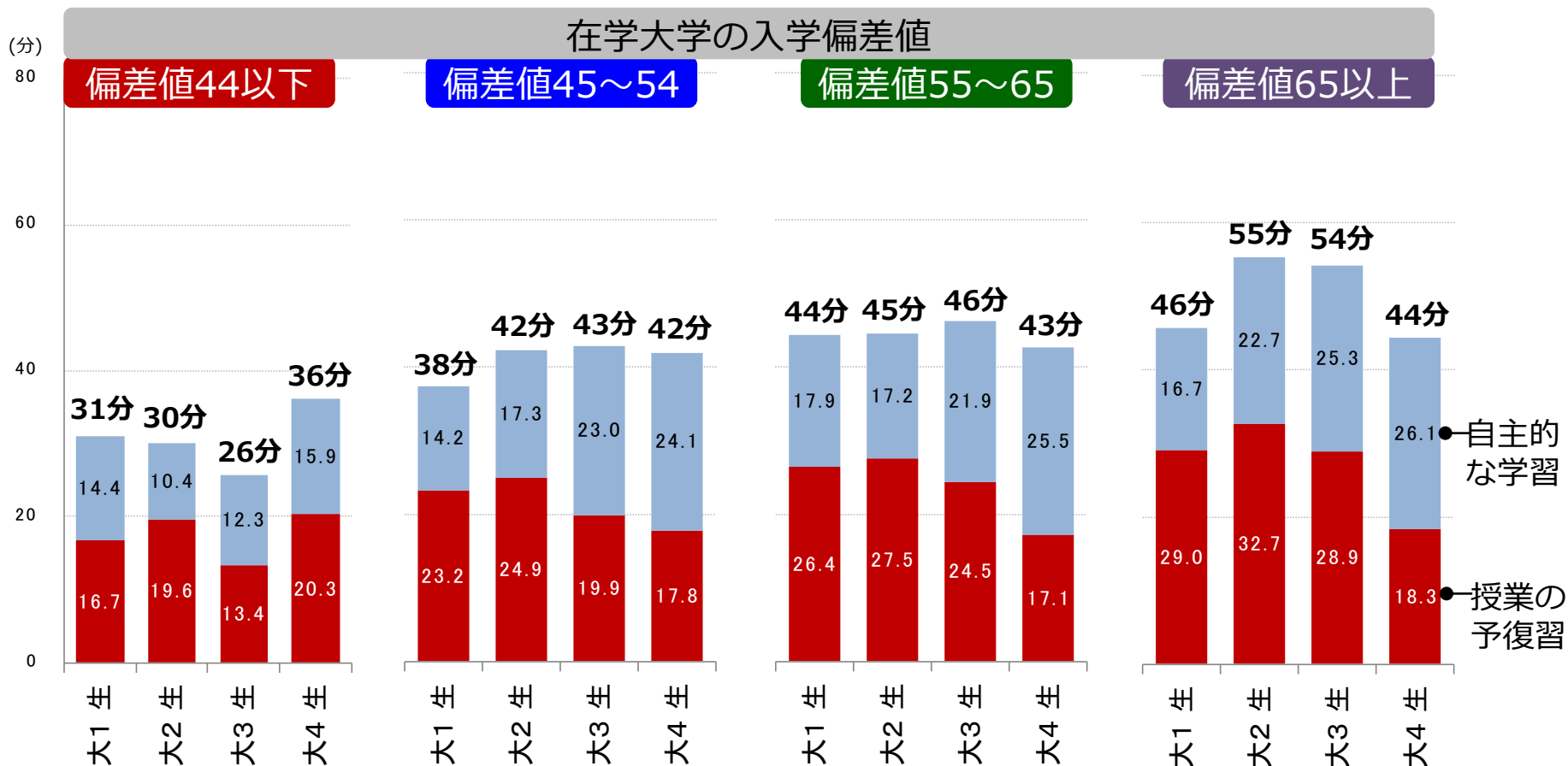
ベネッセ教育総合研究所「第3回 大学生の学習・生活実態調査」。大学生のデータは、たずね方が異なるため参考値。

* 対象：小学生3643名、中学生3,311名、高校生3,129名、大学生4,948名。

大学生-偏差値による学習時間の違い 21

- 入学偏差値「44以下」に在学する大学生の学習時間は30分前後、「65以上」に在学する大学生の学習時間は50分前後。入学偏差値によって、多少の差が見られる。
- 学年による差は大きくなく、どの学年も30～50分程度で推移している。

- 図表20：平日の学習時間（在学大学の入学偏差値別、大学生、1日あたりの平均時間）



* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第3回 大学生の学習・生活実態調査](#)」。

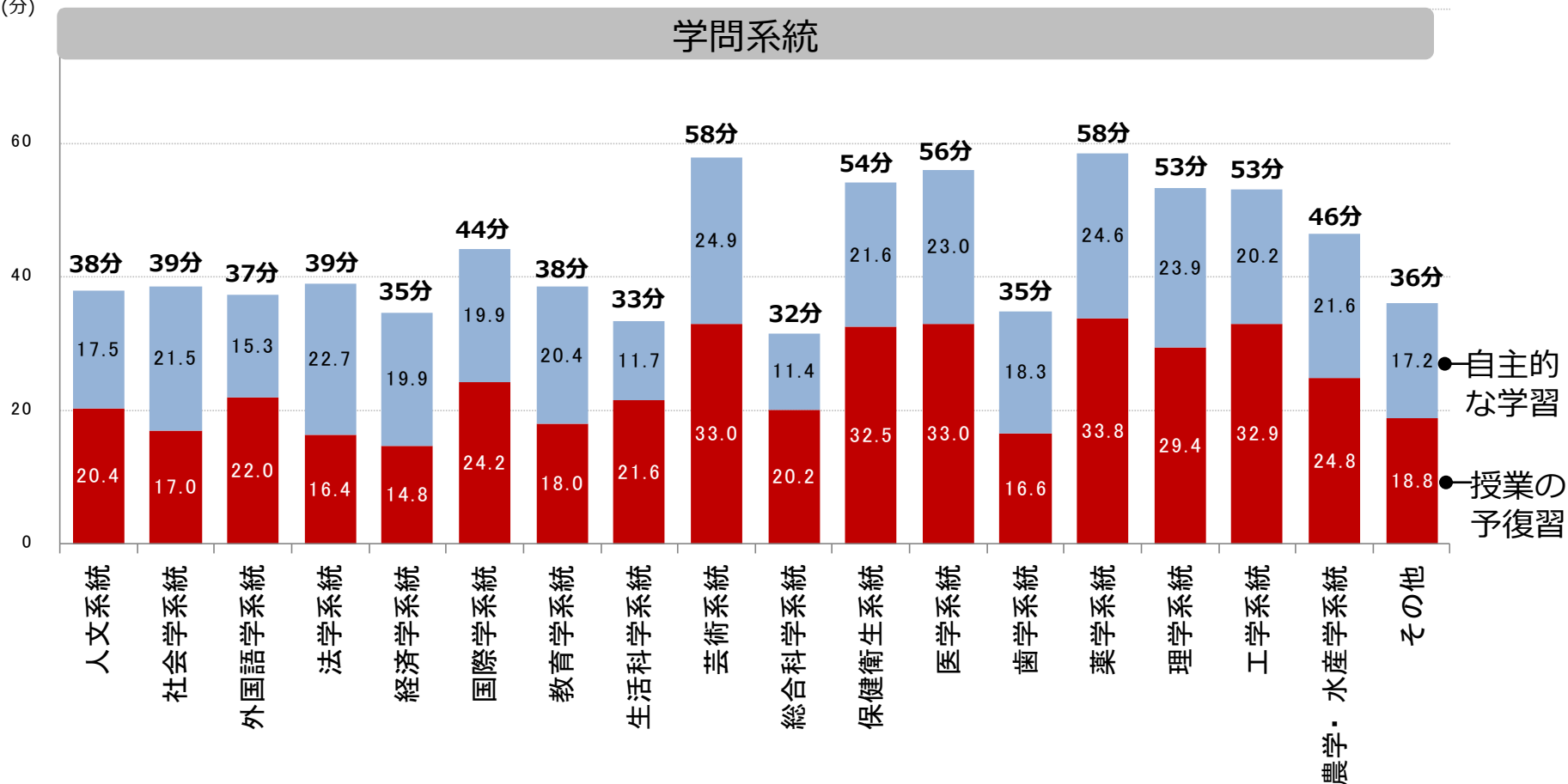
* 対象：大学1～4年生4,948名（各学年1,237名）。在学大学の入学偏差値は自己申告による。入学偏差値が不明のケースは、図から省略した。

大学生-学問系統による学習時間の違い 22

- 学習時間がもっとも長いのは「芸術系統」と「薬学系統」。総じて、理系学部の学生の学習時間が長い傾向が見られる。
- 「自主的な学習」は学問系統による差が小さいが、「授業の予復習」の差が相対的に大きい。

● 図表21：平日の学習時間（学問系統別、大学生、1日あたりの平均時間）

(分)



* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第3回 大学生の学習・生活実態調査](#)」。

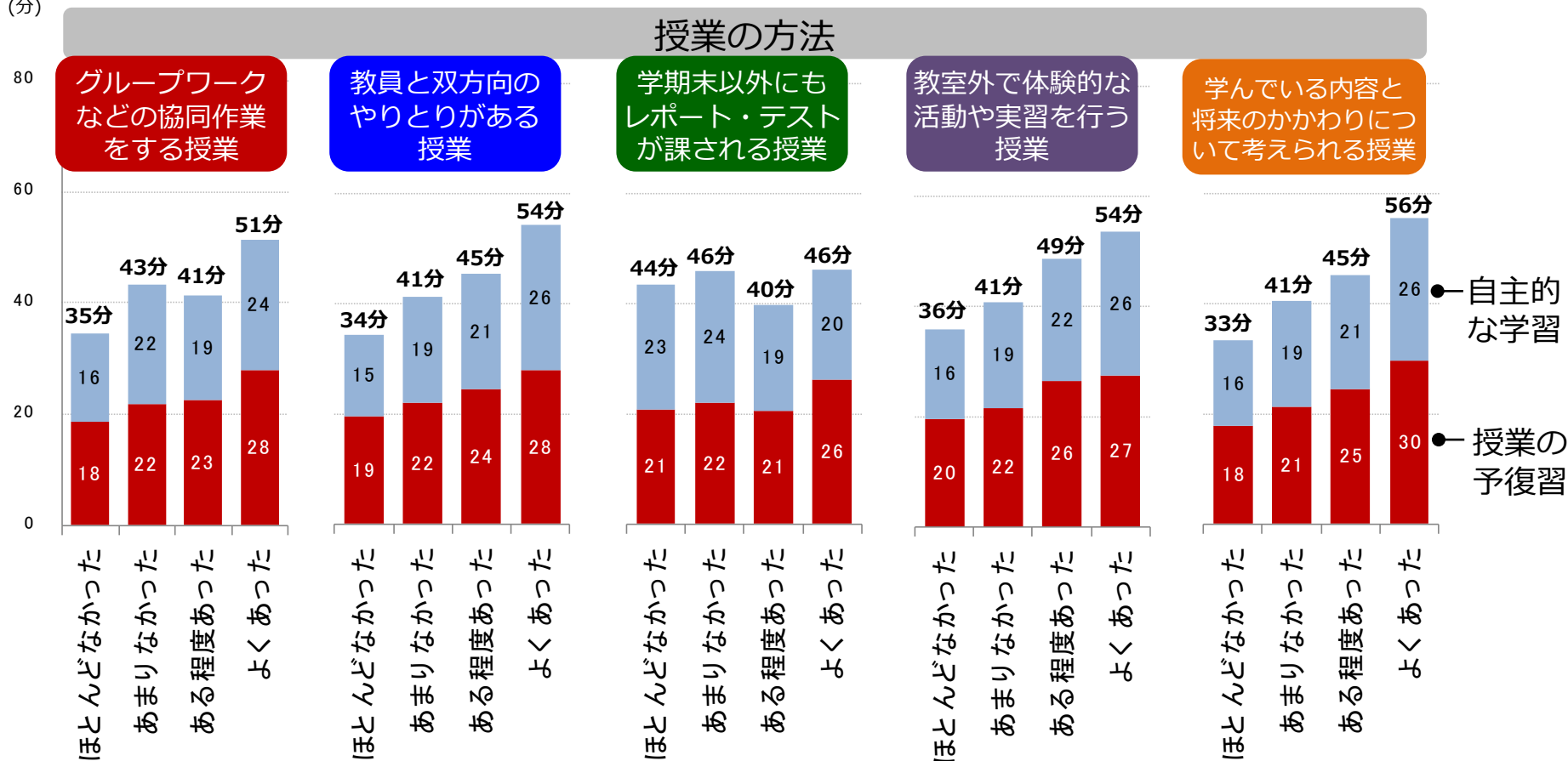
* 対象：大学1～4年生4,948名（各学年1,237名）。専攻する学部の学問系統は自己申告による。

大学生-授業方法による学習時間の違い 23

- 「グループワーク」「教員と双方向のやりとり」「体験的な活動や実習」「将来のかかわりについて考えられる」など、活発な授業を経験している学生の学習時間が長い。
- 「レポート・テストが課される」は学習行動をうながすことにつながっていない。

● 図表22：平日の学習時間（授業方法別、大学生、1日あたりの平均時間）

(分)



* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第3回 大学生の学習・生活実態調査](#)」。

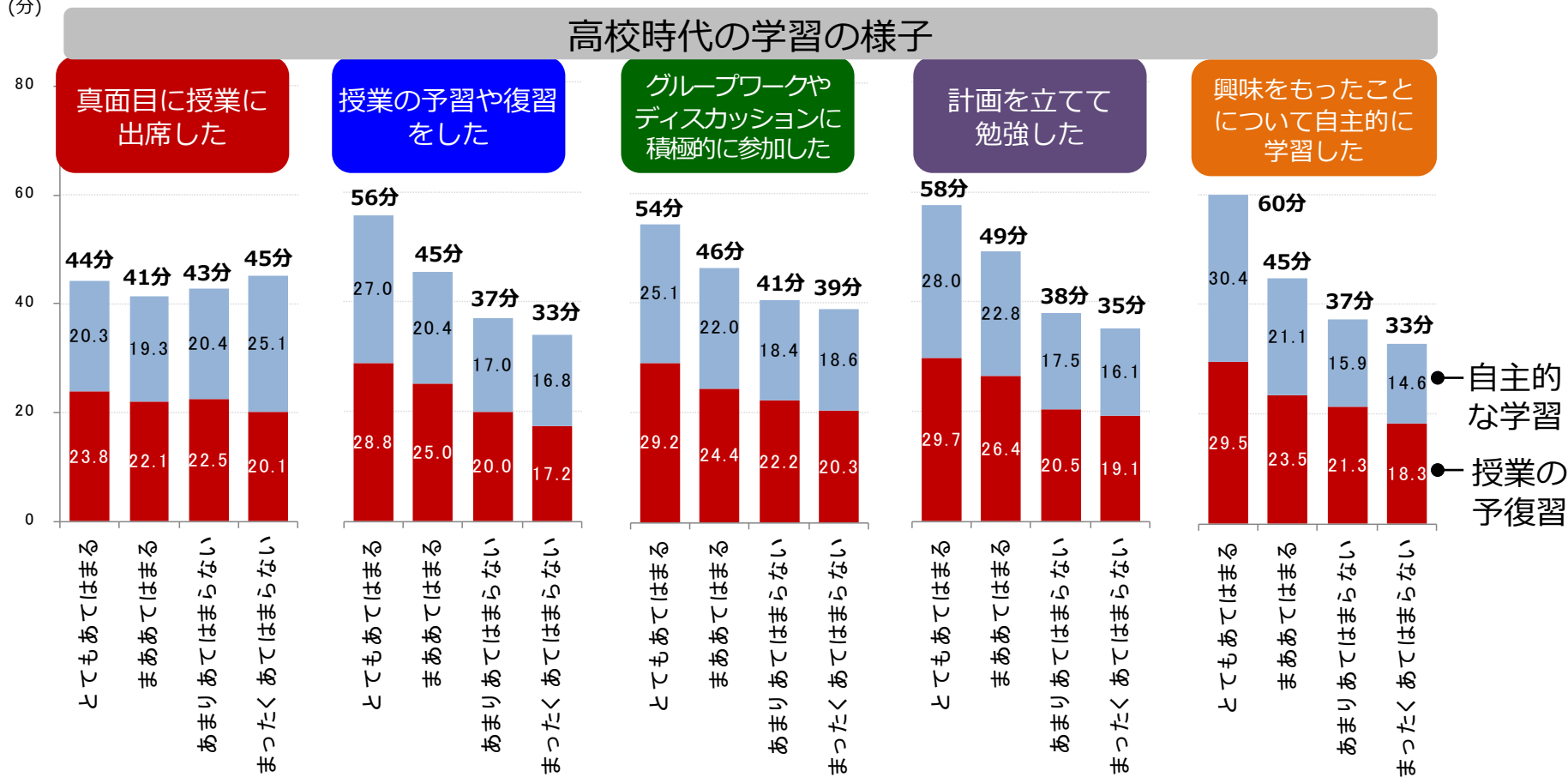
* 対象：大学1～4年生4,948名（各学年1,237名）。

大学生-高校時代による学習時間の違い 24

- 高校時代に「まじめに授業に出席」していても、大学での学習時間は長くない。
- 高校時代に「授業の予習や復習」「グループワークやディスカッション」「計画を立てて勉強」「自主的に学習」をしていた学生ほど、大学での学習時間が長い。

● 図表23：平日の学習時間（高校時代の学習の様子別、大学生、1日あたりの平均時間）

(分)



* 出典：ベネッセ教育総合研究所「[第3回 大学生の学習・生活実態調査](#)」。

* 対象：大学1～4年生4,948名（各学年1,237名）。